



Weekly Report

東京立川ロータリークラブ

2016.11.18 第2725回 例会



東京立川ロータリークラブ 会長 尾内 昭夫

【会長挨拶】 尾内昭夫会長

地区青少年インターシップにご協力下さいました十二社の会員企業の皆様、本当に有難うございました。御礼申し上げます。今日は喫煙の話「喫煙万歳!」です。ある雑誌に載っていたお医者さんの話です。厚生労働省は15年ぶりに「喫煙の健康影響に関する検討会報告書(たばこ白書)案」を改訂し公表しました。日本では、自らの意思で吸う能動喫煙により年間約13万人、他人が吸うたばこの煙にさらされていることによる受動喫煙で年間約1万5,000人が死亡していると推計されています。喫煙者の病気のうち、肺、口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、副鼻腔、食道、胃、肝臓、膵臓、膀胱および子宮頸部の各種がん 1. 脳卒中、虚血性心疾患、腹部大動脈瘤などの循環器疾患 2. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの呼吸器疾患 3. 2型糖尿病 4. 歯周病 などが、喫煙との因果関係は「確実」と判定されました。受動喫煙者でも肺がん、脳卒中、虚血性心疾患のほか、小児ぜんそくなどとの関係も「確実」と判定されています。ほとんどの主立った病気に喫煙が関係している事にお墨付きが与えられた訳ですが、それでも禁煙しない人も多いです。折しも、昨年度の医療費は初めて40兆円を突破し、国民の負担がさらに重くなると危惧されています。その中で、多くの病気を引き起こす喫煙者の医療費が、しばしば問題になっています。確かにある時期の喫煙者の医療費は非喫煙者に対して多い事は様々な調査からわかっていますが、一生で考えると高くはなく、むしろ低いかもしれないという話があります。喫煙者が国全体の医療費を釣り上げているかのような謂われのない迫害を受けていますが、実は喫煙者の寿命は10年ほど短いので、一生を通じてみると総額は非喫煙者とあまり変わりません。また受け取る年金も10年分少なくなります。つまり死んでしまえば医療費・年金などの社会保障費が必要なくなるので、トータルでの受給は少ないという計算になります。それに加えてたばこ税を払っているのだから、非喫煙者より国に貢献しています。年金額にもよりますが、ざっと試算した所、2,000万~3,000万円くらいは国に貢献していることになるそうです。もちろん公衆の面前や家庭内で喫煙をすると受動喫煙で他人の健康に害を及ぼすので控えて欲しいが、決められた場所で喫煙するのは自己責任です。喫煙者の寿命は10年ほど短いといっても生産年齢はまっとうできるので、十分に社会に貢献しています。だから喫煙者が社会保障を多く使っているというのは「根拠のない迫害」です。喫煙者を寛容な心で温かく見守って頂ければと思います。



尾内昭夫会長



司会進行
肥沼俊男副委員長



ニコニコ発表
小林敬三委員



出席率の発表
金原宏和委員

【司会進行】

SAA委員会 肥沼俊男副委員長

【開会点鐘】 尾内昭夫会長

【ロータリーソング斉唱】

『それこそロータリー』

【お客様紹介】

【会長挨拶】 尾内昭夫会長

【幹事報告】 織原寛一郎幹事

【委員会報告】

親睦委員会 端晶弘委員長

第28回立川RC スキー・スノーボードツアー
岡部直士さん

【ニコニコ発表】

親睦委員会 小林敬三委員

【出席率の発表】

出席委員会 金原宏和委員

11月18日(金)	会 員 数	108名
	出席義務会員	101名
	出席免除会員	7名
	当日出席者	87名
	出席免除会員の当日出席者	3名
	出席率	83.65%
	11月4日の出席率	80.80% → 96.15%

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 杉浦基紀委員

【卓話】

東京海上日動火災保険(株) 顧問

前 警察庁長官 米田壮様

【閉会点鐘】 尾内昭夫会長

2016~2017年度 RIテーマ



2016~2017年度 国際ロータリー会長 ジョン・ジャーム

2016~2017年度 クラブテーマ

ロマン
夢を語ろう!!

ROTARY SERVING HUMANITY
東京立川ロータリークラブ
会長 尾内昭夫



例会時には必ずバッジをつけましょう

【お客様の紹介】

結城英貴様(東京八王子南RC)
金子貢司様(東京八王子南RC)
古川健太郎様(東京八王子南RC)
田中裕人様(仙台RC)
米田壮様(東京海上日動火災保険(株)顧問)

【幹事報告】 織原寛一郎幹事



●15日(火)～17日(木)まで都立五商の1年生を対象としたインターンシップ事業が開催。12社の会員企業の皆様に受入れのご協力をいただきました。ありがとうございました。●社会を明るくする運動への当クラブからの協賛に対して、平山郁夫画伯の絵のカレンダーを頂戴しました。事務局にて使用させていただきます。●メールBOXにRIアトランタ国際大会のガバナーナイトご参加のお願いを入れました。ご確認ください。●第2750地区のガバナーノミニデーデジグネイト、2019～2020年度のガバナーが東京六本木RCの浅田豊久に決定。●15日(火)規定審議特別委員会が開催。●17日(木)SAA委員会の炉辺開催。●来週21日(月)親睦委員会、22日(火)青少年奉仕委員会の炉辺開催。

【委員会報告】

親睦委員会 端晶弘委員長

12月16日(金)18時より当ホテル4階におきましてクリスマス家族例会が開催されます。当日はお楽しみ抽選会、ディナーショーとしてマルシアさんをお招きしております。皆様にお渡しができるように、伊勢丹さんにも大変なご協力を頂いています。また多くの方々にご協賛を頂いており、誠に有難うございます。12月2日(金)の例会時まで受付けていますので、宜しくお願い致します。



第28回立川RCスキー・スノーボードツアー 岡部直士さん

今回より名称が変わり、立川RCスキー・スノーボードツアーになりました。来年1月20日(金)例会後～22日(日)の2日間、尾瀬岩鞍スキー場、ホワイトワールド尾瀬岩鞍にて開催致します。多くの方のご参加を宜しくお願い致します。



【ニコニコ発表】 親睦委員会 小林敬三委員

- たちかわまちの案内人 伊藤博様、平野久代様、渡辺和江様 先日は私共への表彰並びに懇親会へのお招き有り難うございました。おかげ様で楽しいひと時を過ごさせて頂きました。
- 尾内昭夫会長 先日の規定審議特別委員会にご出席下さった方々、有り難うございました。本日の卓話講師、前警察庁長官 米田壮様、宜しくお願い申し上げます。卓話を楽しみにしております。本日は、東京八王子南RCより3名の方がメイクアップに見えられました。どうぞごゆっくりして行って下さい。
- 織原寛一郎幹事 八王子南RCの皆様、ようこそお越しくださいました。米田壮様、本日の卓話を楽しみにしております。よろしくお願いたします。
- 杉浦基紀さん 米田先輩、本日は警察庁長官時代のご経験を踏まえた卓話を楽しみにしております。どうか宜しくお願いします。
- 浅見英明さん 米田前警察庁長官のお話、楽しみにしております。
- 鈴木祥祐さん 榎戸さん、法務大臣受章お目出度うございます。11/20東保連頭彰式、12/2多摩連頭彰式、H29.1/14北西新年会等大変ですね。次年は大役が控えております。御健勝を祈念申し上げます。
- 三田村秀雄さん 家内の誕生記念月のお祝いを有難うございます。
- 伊藤平八朗さん 前警察庁長官、米田壮様のご来訪を歓迎して。
- 木村辰幸さん 前警察庁長官、東京海上日動火災保険 顧問 米田壮様、本日は卓話宜しくお願いします。国際テロ本当に怖い。興味深い話、有難うございます。
- 長井守さん 地区青少年インターシップ事業に対して受け入れていただいた会員各企業の皆様、ありがとうございました。

本日合計 75,000円 本年度累計 1,487,000円

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 杉浦基紀委員

昭和27年兵庫県に生まれ、東京大学法学部をご卒業後、警察庁に入庁。昭和59年警視庁目黒署長、警視庁刑事部長、警察庁組織犯罪対策部長、警察庁刑事局長を歴任され、主に刑事畑を歩まれました。平成25年1月国内30万人の警察職員のトップである警察庁長官にご就任。長官就任直前の1月16日にはアルカイダ武装勢力の天然ガス精製プラントにおいて、日本人10名が死亡するというアルジェリア人質事件が発生し、長官就任後にはアルジェリア事件の処理を始め、オバマ大統領来日に伴うテロ警戒、イスラム国への渡航阻止、外国情報機関とのトップ同士の交渉等、国際テロ対策に取り組まれました。本日は警察庁長官時代のご経験を中心に、現在も全世界を震撼させている「国際テロの脅威」についてお話しします。



卓話「国際テロの脅威」

東京海上日動火災保険(株) 顧問 前 警察庁長官 米田壮様

私は昭和51年に警察庁に入り、昨年まで約39年間警察の仕事をしていました。本日は国際テロについてですが、テロが国内で起こる可能性がある場合、これを阻止できるかという問題意識のお話になります。今テロはすごい勢いで増えており、一昨年の世界統計で約



16,000件、死者が約45,000人です。西暦2000年と比べると件数で8倍、死者で9倍というレベルに達しています。我が国の治安は非常に良く、他の先進国と比べると犯罪率が1/3~1/7位です。ただ全般的な治安の良し悪しとテロは比例しません。テロリズムは2つの要素、1つは暴力主義的破壊活動、政治的、宗教も入りますが主義主張です。暴力団も暴力的破壊活動もしますが、これは経済的利益の追求のための暴力であるためテロには入りません。テロリストの主義主張は時代によって異なり、1980年代まではテロの主流はML主義、マルクス・レーニンすなわち共産主義の過激派でした。この頃は民族主義的な活動をする組織、例えばPFLP、パレスチナ解放人民戦線のようなもの、マルクス・レーニン主義を標榜していました。1970年代の後半はドイツのバーダー・マインホフ・グループ、すなわちドイツ赤軍、イタリアの赤い旅団、そして日本の日本赤軍、こういった所が非常に活発化しており、ダッカのハイジャックも1977年の事です。日本国内は今でも中核派、革マル派、革労協といったマルクス・レーニン主義の過激派の組織が存在します。これに対して、現代のテロの主流はイスラム過激派です。イスラム過激思想の中でもグローバルジハードと呼ばれる考えに基づくものです。これは自分の国の政府を転覆させるよりもイスラム教徒を圧迫しているアメリカとその同盟国を積極的に攻撃するという考えです。このイスラム過激思想というのは古くは十字軍の時代にもありました。ただ広がっていったのは第一次世界大戦によってアラブ地域がオスマン帝国の支配下から西洋列強の影響下におかれ、活動が一気に活発化したのは1979年の2つの事件からです。イラン革命とアフガニスタン侵攻です。イラン革命はイスラムの中では少数派のシーアの国ですが、アメリカと対決して革命を成功させた事は、多数派も少数派も含めてイスラムの全体を鼓舞しました。ソ連と戦うアフガンの反体制勢力にはイスラム各地から戦闘員がなだれ込み、ソ連が1989年アフガンから撤退した後は、このアフガンがテロリストの聖域となってきました。後に祖国の国籍を剥奪されるアルカイダの創始者ビンラディンですが、父親は大金持ちで建設業者です。ビンラディンがアルカイダを組織したのは1988年、その後一旦アフガンを離れますが1996年以降はここを拠点としてテロ活動を指揮します。アルカイダによるテロは2001年9月11日、米国同時多発テロで死者が3,000人でした。しかし同時多発テロの翌月からアメリカ軍をはじめ各部の軍隊がアフガニスタンに侵攻します。そこでアルカイダは拠点を失ってアフガニスタンの国境付近に潜伏する事になります。以後組織の統制力を弱体化させ中東やアフリカ各地で生まれたアルカイダ系フランチャイズ組織による緩やかなネットワークに移行しています。その主なものはAQAPやアル・ヌスラ戦線です。なおビンラディンは2011年5月にアメリカの海軍特殊部隊の攻撃で死亡しました。現在の指導者はザワヒリで元学者ですが、ビンラディン程のカリスマ性はありません。次にISIL、アイシルと読みますがイスラム国といわれる組織です。2003年のイラク戦争の結果イラクは大変混乱します。スンニ派シーア派の対立、部族間の対立等が非常に激しくて統治能力が極端に低下しました。一方アラブの春が起りシリアで反対派の勢力が拡大し内戦状態になりました。結局イラクの北西部からシリアの東部にかけて広大な統治権力の空白地帯がうまれました。これを昔は破綻国家といい、今は脆弱国家といいます。この混乱の中でヨルダン人のザルカーイという者がイラクに入り、イラク駐留外国人を攻撃したりシーア派を攻撃したり、誘拐をしたりという活動を行いながら、スンニ派部族の支持を得

て急速に勢力を拡大しました。このグループがアルカイダに忠誠を誓ってアルカイダのフランチャイズの第一号、AQIイラクのアルカイダになった訳です。その後ザルカーイから次々トップは代わっていくのですが、2011年のアメリカ軍撤退以降、さらに勢力を拡大させてシリアにも進出しました。この時のアルカイダの最高指導者はザワヒリになっていましたが、AQIはイラクに活動を限定しろという指示をしましたが、AQI側は反対して独立しました。これがイスラム国の成立の過程です。このISILには旧フセイン政権の元軍人、元官僚、政権を支えていた者の動員が加わっているとみられ、従って地域を統治する能力、敵から奪った武器を直ちに使いこなす能力等、侮りがたい力を持っています。アルカイダとISILの方針の最大の違いはシーア派に対する態度です。ISILはシーア派に対してとても攻撃的です。さて呼称問題ですが彼らが名乗るイスラム国という名称をどこの国も使用したくない気持ちがあります。勿論国とは認めずこういう残虐行為を繰り返すのはイスラムでないと言いたい訳です。そこで日本やアメリカの当局はISILと呼んでいます。彼らがかつて名乗った名前です。またNHK等はイスラミックステートと呼んだりしています。ISILはイラク、レバントのイスラム国ですが、イラク、シリアのイスラム国と名乗っていた時期もありますので、ISISという事にもなります。中東諸国やフランスはダーイシュとアラビア語の表記からきている名称を使っています。アルカイダとISILは激しくブランド争いをしており、このブランドの優劣は資金や戦闘員の確保に直結し、組織の勢力にとって重要な事です。ISILはオンラインマガジンやソーシャルメディアを通じた戦略が大変匠みで、アルカイダをしのぐブランド力を持つようになっており、北西アフリカから東南アジアにかけて、多くの武装組織がISILに忠誠を誓うという状況になっています。ちなみにISILがその領だと宣言しているのは、東は中国の新疆ウイグル地区、西はスペイン、北はバルカン半島とコーカサス、南はアフリカの中南部に及びます。しかしアルカイダも最近急速にブランド力を回復しつつあり、ISILがイラクとシリアで彼らが主張する領土を失う事態になっており、勢力を弱体化させています。アルカイダにはビンラディンの息子というスターが登場し、これがブランド力の回復に結びついていると思います。テロリストで一番今問題なのはホームグロウンテロリストです。これは主に欧米に居住するもので、イスラム過激派の思想に感化され、現地でテロを行うというもので、一匹狼である事も多いです。彼らはインターネットを通じ過激派の思想に共感をし、ネットから爆弾の作り方やテロの実行ノウハウを手に入れます。更にシリアである事が多いのですが、紛争地に行って軍事訓練あるいは実際の戦闘に参加して経験を積むという事です。ボストンマラソンの爆弾テロの犯人は、アラビア半島のアルカイダのオンライン雑誌の記事を見て、それ通りに圧力釜爆弾を作ったという事です。かつては強硬な組織がないとなかなかテロはしにくいものでしたが、現在はグーグルアースやストリートビューというような便利なツールもあります。またドローンを使えば厳重に守られている場所に爆発物を仕掛ける事も出来ます。また爆発物製造のノウハウもネット経由で簡単に手に入るので、今は素人のテロリストが組織の支援を得ずにテロの準備や本番の行動が出来るという時代になっています。先進国の治安情報機関はこのイスラム過激派に関する情報収集活動に非常に苦戦しています。冷戦期は相手の組織もがっちりした組織ですので、その内部に時間をかけて協力者を獲得したり、スパイを送り込んだり、通信傍受のある組織全体を系統的に見たりと自体を把握していた訳です

が、今のテロリストは相互の繋がりが緩く、テロを実行する可能性がある犯人を特定し監視するのが非常に難しくなっています。最近の主なテロには大雑把に2種類あります。1つは権力の空白地帯かまたはその付近におけるテロです。もう1つは主に西側各国のホームグロウンテロリストです。キーワードは脆弱国家とホームグロウンテロリストです。本題として日本は国内テロを阻止できるかという事です。我が国では日本人が海外でテロに遭ったという話は割合認識されていると思います。過去に国内にテロが及んだという事は余り知られていません。筑波大助教授刺殺事件は1991年7月に、イギリス人の作家サルマン・ラシュディが悪魔の詩というイスラム教を少し皮肉ったような小説を書き、その日本語の翻訳者である筑波大五十嵐一助教授が大学のエレベーターホールで刃物で殺害されていたのが発見されました。当時イランの最高指導者ホメイニ氏がこの小説に関わった者への死刑宣告のファトワを出しました。ファトワというのはイスラム法上の勧告です。イランでは多額の懸賞金も掛けられました。それを受けて欧米各地ではイスラム教徒によるこの小説に反対するデモ、翻訳者への襲撃事件等が発生しました。ちなみにこのファトワというのは高い位の聖職者であれば誰でも宣告する事ができ、アラブ首長国連邦では法的拘束力を持つといわれています。そうでない国もイスラム法に基づく裁判には大きな影響があるといわれています。過去アラブ首長国連邦のちにサウジアラビアなども出したポケモン禁止のファトワ、サウジアラビアのミッキーマウス禁止のファトワも出ています。筑波大助教授の事件はこうした情勢の中で発生し未解決で、時効にはなっていますが、海外に犯人がいた場合にはその間無効になりますのでまだ可能性は残されています。次に成田航空行きフィリピン航空機爆破事件は1994年に起き、アルカイダのテロリストがマニラからフィリピン航空機に搭乗し、持ち込んだ爆弾を座席の下に隠して経由地のセブ国際空港で降りました。この方法は、大韓航空機爆破事件のキムヒョンヒと同じ手口です。この飛行機がセブから成田に向かう途中の南大東島付近で爆破され、日本人乗客1名が死亡、10名が負傷しました。床下の操縦系統が損傷し、左右のエンジンの出力調整でコントロールし、那覇空港に緊急着陸した事件でした。恐らく胴体の燃料タンクを狙った爆破であったと見られています。このテロは約1ヶ月余後にアルカイダが計画したホジンカ計画の予行練習だったという事が後に判明しています。ホジンカ計画とはアジア各国を出発するアメリカ行きの旅客機12機を、同時に爆発させるという計画でしたが実行されませんでした。ホジンカ計画が中止になった後、2001.9.11同時多発テロはアルカイダの幹部のハリド・シェイク・モハメドが指揮し、アルカイダのテロとしては最大です。このフィリピン航空機の実行犯はこのハリド・シェイク・モハメドの甥で、現在はアメリカで拘束されています。日本国内のテロの可能性を幾つかあげていますが、1つは世界テロ指数、GTIはオーストラリアのシンクタンク、経済平和研究所が発表しています。日本は最下位の124位です。1位はイラク、2位はアフガニスタンです。イスラム過激派が日本にどういった態度をとっているか、昔と違いアルカイダは数度に渡り日本を名指しで標的にするといっ

ており、ISILもオンライン雑誌で日本人は今や標的だと主張しています。アルジェリアのプラントの襲撃やISILの日本人人質殺害をみると、アメリカやイギリス、フランス等と区別されていないと思います。実際のテロの実行の危険性の程度は実行の難易度×政治的効果の大小で決まると思われます。アルカイダもISILも標的にすると言っていますし、日本国内には彼らが最も敵視するアメリカの領土があり、狙う意味がある事は間違いありません。しかし今のところ最優先の目標とはいえず、その順位が上がるのはオリンピック、パラリンピック、その前の年のラグビーワールドカップ等大規模行事の時です。このタイミングなら政治的効果は大きく、実行は容易でなくても仕掛けてくる可能性はあります。注意しなければいけないのはホームグロウンテロリストです。日本はイスラム過激思想という視点ではなく、秋葉原事件の時のようなアベンジャー型犯罪、社会への復讐といった観点で見ると、以外と類似点があるのではないかと思います。今年の7月にニュースの花火大会でトラックを突入させた犯人は、報道によれば豚肉を食べ酒も飲んでたという事ですが、イスラム過激思想と歴史社会の不満の側面に注目すれば理解出来るのではないかと。さて日本のテロ対策は結論からいうと抑止力は高いレベルにあります。要因は2つあり、1つは機能が統合されているという事です。日本の警察は捜査機関であり、情報機関であり、警備実施の責任も負っています。諸外国はこれらが別機関としてやっている事が多くあり、その間の情報共有やオペレーションの調整難航という課題が常にあります。現代の情報が多すぎて絞り込めないという状況の中できちんと守るべきものを守るには、恐らく世界で最も適合している国ではないかと思います。もう1つは官民協力が大変緊密であるという事です。今年国連総会の時にニューヨークで爆弾テロがありました。これはゴミ箱に仕掛けられたそうですが、日本ではまず成功しません。こういう事がある時はゴミ箱やコインロッカーも閉鎖され、事業者や警察による警戒が格段に強化されます。国民の皆さんは文句一つ言わずに協力してくれる状況です。また爆発物の原材料を扱うホームセンター等では不審情報を提供して頂く、あるいは原材料を買うときの本人確認もして頂いています。以前通勤電車を爆発しようとした人は、この通報によって実行に至る前に逮捕したという事もありました。一方情報活動においては日本では問題があります。他国に比べて法的、社会的制約が非常に大きいのが通信傍受です。テロ対策・予防に役立つ行政傍受も現在全く出来ません。今は西側の各国が膨大な情報処理仕切れない、情報に頼れない中で、情報が不足していても現場で守るという日本のテロ対策の在り方が、相対的に光っているように見える訳です。将来情報の洪水はAI人工知能によって処理可能になると思いますが、その時に行政傍受等の権限の違いが逆に問題となり、我が国が国際的にテロ対策に弱くなると考えておかなければなりません。オリンピック、パラリンピックまであと4年を切っています。この時にテロだけでなく、サイバー攻撃も大きな山場を迎えると思います。私はもう警察の人間ではありませんが、テロ対策の中心を担う警察へ、オリンピックへ向けてご支援ご協力をお願い致します。

➤事務局／東京都立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階
【TEL】042-525-4046 【FAX】042-529-2666
【HP】<http://www.tachikawa-rc.org/>
【E-mail】ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp

➤例会場／東京都立川市曙町2-40-15 パレスホテル立川
TEL：042-527-1111
➤例会日／金曜日 12：30点鐘
会長／尾内昭夫 幹事／織原寛一郎 会報担当者／古屋佳男委員